公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2018 年 12 月 6 日（木）１限　実施
後期②考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組
Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　次の文章を読み下の問い（**問１～問６**）に答えよ。（配点　20）

ブッダの死後，紀元前 3 世紀のマウリヤ朝［　1　］王のころ，仏教教団は保守的な上座部と進歩的な大衆部とに分裂した。以後両派は分派をかさね，結局約 20 の部派が並立することになった。これを部派仏教とよぶ。部派仏教は，出家し，きびしい戒律を守って修行し，［　2　］を理想として自分一個の悟りを求めることを重視した。

これに対して，紀元前１世紀ごろから，一般民衆ならびにその指導者であった説教師のあいだで，自分の悟りを求めるという自利とともに慈悲の利他行を重んじ，広く一切の衆生の救済を目指して献身する［　3　］を理想とする運動がおこった。彼らは，みずからの教えを，大衆を救う大きな乗り物ともいうべき教えであるとして，(a)大乗仏教と名づけた。

大乗仏教においては，ブッダはかぎりない知恵と慈悲とをもって一切の衆生を救おうとする絶対者であるとともに，人間はまだめざめぬブッダにほかならないという考え方が成立した。ここから，迷いの身であっても発心さえすれば仏となることができるとする (b)即身成仏の思想などが生まれた。そして［　3　］の実践すべき徳目として (c)六波羅蜜が説かれた。

この大乗仏教の発展に大きく寄与したのが (d)ナーガールジュナ（竜樹）とアサンガ（無著）・ヴァスバンドゥ（世親）兄弟である。ナーガールジュナは著書『［　4　］』の中で空の思想を展開し，一切の事物が空であること，すなわち固定的な実体をもたないこと（無自性）を，さまざまな角度から論じた。これはブッダの縁起の思想を論理的に展開したものといえる。また，アサンガとヴァスバンドゥは，一切の事物はすべて実在しておらず，ただ識別する心の働きの生み出したものであるとする［　5　］の思想を形成した。

問１　文章中の空欄［1］～［5］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［1］
① カニシカ　② チャンドラグプタ
③ ティムール　④ アショーカ

［2］
① 阿羅漢　② 比丘
③ 菩薩　④ 如来

［3］
① 阿羅漢　② 比丘
③ 菩薩　④ 如来

［4］
① 唯識二十論　② 中論
③ 摂大乗論　④ 観無量寿経疏

［5］
① 如来蔵　② 中観
③ 唯識　④ 密教

問２　下線部(a)に関して，ブッダが教えを広める決意をした際に起こしたと伝えられる慈悲心は，あらゆる生命あるものへと向けられており，大乗仏教ではその方向性はより顕在化した。この内容を表す記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[6]（2010 年センター追再試）

①　あらゆる生命あるものの意志への配慮が重視されそれに反する教えを駆逐するためには戦うことも辞さない態度が理想とされた。
②　出家をした後，あらゆる生命あるものを殺さないように配慮しながらひたすら苦行を積むことで，救済に至ることが理想とされた。
③　創造主によって，人は善き道徳性を与えられており，自らの徳を育む修養が完成した後にあらゆる生命あるものにそれを広めることが理想とされた。
④　あらゆる生命あるものはことごとく救済される可能性をもっており，それらの救済を目指して修行することが理想とされた。

問３　下線部(b)に関して，即身成仏を重視する密教の教えとして**適当でないもの**を，次の①～④から一つ選べ。[7]

①　享楽主義的風潮と，伝統的苦行主義や形而上学を否定し，実際経験できる人間の身体的･精神的現象のみを取り上げて，欲望を滅し静かな涅槃の境地に入ることをすすめる。
②　自己を非公開的な教団の内に閉鎖し，秘密の教義と儀礼を師資相承によって伝持しようとする秘密仏教。
③　世界を宇宙的な，仏大日如来の内実のマンダラ(余すところなき総体の意)とみる世界観を図絵マンダラとして表現し，儀礼的にその世界に参入しようとする。
④　仏の行動をシンボライズする印を手で結び，仏の正覚を心に念じて仏と同体化しようとした。これが三密(口密，身密，意密)瑜伽(ゆが)による実践である。

問４　下線部(c)に関して，六波羅蜜の内容として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから選べ。[8]

①　精進　　②　智慧　　③　布施　　④　身命

問５　次のテキストの著者として最も適当なものを，下の①～④のうちから選べ。[9]

大乗においては，三種の領域からなるこの世界はただ表象にすぎないものである，と教えられる。経典（華厳経）に，「勝者の子息たちよ，実にこの三界は心のみのものである」と言われているからである。心，意，認識，表象，というのはみな同義異語である。ここに心と言われているのは，（それにともなって起こる心的作用と）連合している心のことである。「のみ」というのは外界の対象の存在を否定するためである。

①　達磨　　②　竜樹　　③　世親　　④　玄奘

問６　下線部(d)に関して，次の文章は，智慧の内容をめぐる，竜樹(ナーガールジュナ)とその批判者との対話の一部である。ここから読み取れる竜樹の考えとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［10］（2016 年センター追再試）

批判者：空であることばを用いて，ものの本体が否定されることはない。ものは，存在しない火によって焼かれない。同じように，存在しないことばによって，ものの本体を否定することはできない。

竜　樹：君はものが空であることの意味を理解していない。……空であるとは，他に縁(よ)って存在しているということである。なぜそう言えるのか。本体がないからである。実に，他に縁って生じているものは，本体をもって存在しているのではない。それ自身で存在していないからである。……車や壺(つぼ)や布などは，他に縁って生じているため本体をもたないけれども，木や草や土を運ぶといったはたらきをする。同じように，私のこのことばも，他に縁って生じているため本体をもたないけれども，ものに本体がないことを証明するはたらきをするのだ。

（『論争の超越』より）

① ものが存在していないことと，ものが空であることは，同一ではない。ものが存在していないとは，ものはもっぱら他に縁って生じるということであり，他に縁って生じたものにも，何かを行うはたらきはある。

② ものがそれ自身で存在していないことと，ものが存在していないことは，同一ではない。ものがそれ自身で存在していないとは，ものに本体があるということであり，本体があるものにも，何かを行うはたらきはある。

③ ものが存在していないことと，ものがもっぱら他に縁って生じることは，同一ではない。ものが存在していないとは，ものに本体がないということであり，本体がないものにも，何かを行うはたらきはある。

④ ものに本体がないことと，ものが存在していないことは，同一ではない。ものに本体がないとは，ものがそれ自身で存在していないということであり，それ自身で存在していないものにも，何かを行うはたらきはある。

第２問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。（配点　12）

諸子百家の諸子とは、書目では経書や史書などと対置されるのだが、本来はもろもろの学士をさす。その本格的な学派分類は、司馬遷の父、談の六家（(a)陰陽家、儒家、(b)墨家、(c)名家、(d)法家、道家）、および班固の十家（儒家、道家、陰陽家、法家、名家、墨家、縦横家、雑家、(e)農家、小説家）に始まる。『隋書』経籍志では、兵、天文、暦数、五行、医方の五類が付加される。先秦時代の諸子に限っていえば、かかる後代の尺度による分類は、かならずしもその実態の把握に直結しない。なぜなら、いわゆる諸子百家のうち学派とよぶにふさわしい実質を備えていたのは、儒家と墨家の両派のみであったと推測されるからである。したがって、十家などの分類は、諸子の大まかな思想・学説の傾向を示したものにすぎない。戦国期に諸子の輩出した原因としては、各国君主が混迷の時代を乗り切るための方策を求めていたことや、それに伴う活発な精神を基調とする下剋上の風潮などをあげることができる。

問１　次のア～ウは，古代中国の思想家の自然観に関する説明であるが，それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑨のうちから一つ選べ。［11］（2013 年センター追再試）

ア　自然現象を，対立しつつ補完し合う陰陽と，すべての物質を構成する五行という概念によって説明し，さらに循環する五行の順序に従って王朝が変わるという説を唱えた。
イ　宇宙の根源であり，万物を生み出す本質を道と名づけたうえで，人間はその道を模範として，作為的に振舞うことのない自然に従った生き方をすべきであると主張した。
ウ　万物の区別や差異は人間の視点に立った相対的なものにすぎず，本来はすべてのものが等しい存在であると説き，あるがままの天地自然に身を任せるべきであると主張した。

① ア　鄒　衍　　イ　老　子　　ウ　荘　子
② ア　孫　子　　イ　鄒　衍　　ウ　老　子
③ ア　荘　子　　イ　孫　子　　ウ　鄒　衍
④ ア　老　子　　イ　荘　子　　ウ　孫　子
⑤ ア　老　子　　イ　孫　子　　ウ　鄒　衍
⑥ ア　荘　子　　イ　老　子　　ウ　孫　子
⑦ ア　鄒　衍　　イ　荘　子　　ウ　老　子
⑧ ア　孫　子　　イ　鄒　衍　　ウ　荘　子
⑨ ア　孫　子　　イ　老　子　　ウ　荘　子

問２　下線部(a)陰陽家に関して，**五行に含まれないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［12］

①　木　　②　月　　③　金　　④　火

問３　下線部(b)に関して，墨家の儒家批判の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［13］

①　儒家の説く礼楽は人為の道であり偽りの道である。作為を廃して天の道に従うことが安天下の道である。
②　儒家の説く智の徳は無益な受験競争をもたらす。科挙を廃して実践的な行動力のある者を登用すべきである。
③　儒家の説く義は，それを貫徹しようとすると争いが発生してしまう。防衛戦争も含めてあらゆる戦いを認めるべきではない。
④　儒家の説く仁愛は差別的な愛である。自分と他人を区別せず，すべての人を愛するならば争乱はなくなる。

問４　下線部(c) に関して，名家の思想家として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［14］
①　鄒衍　　②　公孫竜　　③　孫子　　④　蘇秦

問５　下線部(d)に関して，法家の思想に関する語として最も適当なものを，次の①～④の中から一つ選べ。［15］

①　白馬非馬　　②　君民並耕　　③　兼愛交利　　④　信賞必罰

問６　下線部(e)に関して，農家の思想家として最も適当なものを，次の①～④の中から一つ選べ。［16］
①　韓非　　②　許行　　③　恵施　　④　呉子

第３問　次の文章を読み下の問い（**問１～問７**）に答えよ。(配点　24)

孔子の生まれた魯の国は，理想的人物とあおがれた［　17　］のたてた国であった。孔子は若いときからこの［　17　］にあこがれ，その理想の政治のあり方を［　17　］に見出している。そして彼は，社会秩序を実現するには，「これを導くに政を以てし，これを斉うるに刑を以てすれば，民免れて恥なし。これを導くに徳を以てし，これを斉うるに (a)礼を以てすれば，恥ありて且つ格し」と考え，刑罰をともなう法律による法治主義をしりぞけ，道徳と礼儀にもとづいた［　18　］主義をその理想とした。為政者みずからが，まず道徳的体現者である君子たることを目指し己を修め，その感化によってこそ人を治めることができると考えたのである。

孔子はこの道を，心のもち方としての仁と，形としての礼の二つの側面からとりあげている。心のもち方としての仁は，孔子自身もさまざまな仕方で説き，弟子たちもさまざまに解釈しているが，それはまず何よりも「人を愛すること」である。「孝悌なるものは，それ仁の本なるか」というように，仁は親子・兄弟のあいだに自然に発する親愛の情（孝悌）として示されるものであり，それをさまざまな人間関係におし広めていくことであった。孔子が他人に対する心のもち方として説いたことは，まず自分のわがまま，私利私欲をおさえること（克己）であり，人の心を思いやること，つまり［　19　］であった。それは具体的には，自分にしてほしくないことは他人にもしないようにすること(「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」）であり，自分がそうありたいことがあったら，まず人にそうあらしめること（「己立たんと欲して人を立て，己達せんと欲して人を達す」)，などであった。そしてさらには，(b)常に自分を欺かず，人に接して人のまことを欺かないことなどが求められた。このような心のもち方は，すべて仁をなす心のもち方であり，人間はいついかなるときでも，心に仁を守るべきであると説いている。

問１　文章中の空欄［　17　］～［　19　］に入る最も適当な語を，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［　17　］
① 禹　　② 周公
③ 舜　　④ 堯

［　18　］
① 覇道　　② 王道
③ 徳治　　④ 礼治

［　19　］
① 孝　　② 信
③ 恕　　④ 忠

問２　下線部(a)に関して,孔子が説いた礼を重視する生き方の記述として最も適当なものを,次の①～④のうちから一つ選べ。[20]（2013 年センター追再試）

①　仁と義を原則とした秩序を尊重するとともに,法に基づく礼を実践することによって,家族の絆(きずな)を強固にしようとする生き方。
②　親よりも社会のことを第一に考え，いにしえの聖人が定めた礼楽刑政を自ら実践し,他者にもそれを促していく生き方。
③　平等な社会を実現するために差別なき愛に基づき，自らの利益よりも常に他者のことを考え，万人に対して礼を実践していく生き方。
④　上下の序列に基づいた秩序を尊重し,その秩序を礼の実践によって維持するとともに,他者に対する思いやりを重視する生き方。

問３　下線部(b)に関連して，まごころを意味する語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[21]
①　忠　　②　信　　③　恕　　④　仁

問４　次の論語の言葉の中の空欄［ア］～［ウ］に入る語の組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［22］

子曰，巧言令色，鮮矣［ア］。
子曰,君子喩於［イ］,小人喩於利。

回也聞［ウ］以知十。賜也聞［ウ］以知二。

①［ア］義　［イ］一　［ウ］仁
②［ア］義　［イ］仁　［ウ］一
③［ア］一　［イ］義　［ウ］仁
④［ア］一　［イ］仁　［ウ］義
⑤［ア］仁　［イ］義　［ウ］一
⑥［ア］仁　［イ］一　［ウ］義

問５　儒家に関する説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[23]（2006 年センター試験追再試）
①　民を苦しめる礼楽を否定し,犠牲的な奉仕の精神で倹約に努め,万人が等しく愛し合い,戦いを行わない世界を築くべきであると主張した。
②　家族に対する親愛の情こそが社会関係の基本であり，社会関係の様々な局面にそれを広めていくことが，人として生きる道であると主張した。
③　学問修養によって聖人君子となるべきだと主張し，そのよりどころとして，孔子の著書を集成した「四書五経」を根本経典とみなして重視した。
④　人間の本性を道徳によって変えることは，根本的に不可能であると主張し，法律や刑罰によって民を厳しく取り縮まることを重視した。

問６　五経についての説明として**適当でないもの**を,次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

① 礼記は，魯の隠公元年（前 722）から哀公 14 年（前 481）に至る春秋時代 242 年間の国家的大事を略記した年代記である。

② 詩経は，中国最古の詩集であり，黄河流域の諸国や王宮で歌われた詩歌 305 首を収めたものである。

③ 易経は，占いのためのテキストで 64 種類の象徴的符号の卦と，そのおのおのに付された短い占断の言葉から成っている。

④ 書経には，堯･舜の世の記録，禹および夏王朝の記録，文王，武王，周公を主人公とする記録などが描かれている。

問７ 倫理を専ら社会的な規制や規範として語り，それらを形式的に守ることのよしあしだけを論じるならば，我々は社会のあり方と自己との結びつきを断ち切り，人と人との関係のあり方を見失うことになるのではないだろうか。このような問いかけに関して，先哲たちの営みはそれぞれどのようなものであったか。彼らの営みとして最も適当なものを，次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ソクラテスについては［25］に，孔子については［26］に，ブッダについては［27］に，イエスについては［28］に答えよ。(2000 年センター本試験)

① 若いころから様々な知識や技能を習得し，博識の学者となったが，何でも知ることをよしとしたのではなく，知るということは知っていることを知っていることとし，知らないことを知らないこととすることだと教えた。

② 多神教を背景とする部族社会に生じた不公正な富の配分や利己主義の蔓延を批判し，富裕な支配者層からの迫害を受けながらも，終末の審判を行う唯一神への信仰を説き，その信仰に基づく共同体の建設に努めた。

③ 苦しみ，傷つきながら生きている人々の声に応えて，自己中心的な生き方を越え互いに分け隔てなく愛し合うことを教え，日常的であるが故に形式的な遵守にかたむきがちであった規範を根本的に問い直した。

④ 人が苦しみを厭(いと)いながら苦しみを重ねていくのは，すべては依存しあって成立しているという真理について無知であるためだと考え，この真理を正しく知り他者に対しても慈(いつく)しみの心を起こすべきだと諭した。

⑤ 人間は社会的動物であると考え，よき市民がもつべき倫理的な徳は，過多や過少に陥らない行為を反復することによって形成されると論じ，現実的な視点から社会において友愛や正義が果たす役割を考察した。

⑥ 秩序の解体の危機に接して，親しい人への自然な愛を人間関係の基本として秩序に主体的に従うことが追求されるべきだと考え，正しい人が人々の上位に立つならば民衆は和合してその人に付き従うと説いた。

⑦ 苦行を通じて自己と絶対者との一体化に至ることが一切の苦悩からの解放の道であるという教えに対して，人生の苦しみの原因は自己に執着することにあると考え，恒常不変の自我という存在を否定した。

⑧ よく生きることは正しく生きることであるという前提に立って，国法に従うことを正しいと自ら同意したのであるから，その同意を破るべきではないと述べ，不当な判決には服すべきではないと説く友人の言葉を退けた。

第４問 次の文章を読み，下の問い（**問１～問３**）に答えよ。(配点 20)

孟子は，孔子の仁の教えを継承して，人間は生まれながらにして［　29　］の心，羞悪の心，辞譲の心，［　30　］の心の四端の心が備わっているとして性善説をとなえた。このように，人はだれでも，善をおこなう心をもっているので，この心を養い育てることによって，人はそれぞれ仁・義・［　31　］・智の四徳を実現できると説いた。この四徳を備えた者には，天地間に満ちている強い道徳的勇気である浩然の気がみなぎってくるとし，そうした理想的人間像を［　32　］とよんだ。また，孟子は，基本的な人間関係のあり方として，父子の親，君臣の［　33　］，夫婦の別，長幼の［　34　］，朋友の信という五倫の道を示し，それによって社会秩序の回復を目指した。

政治思想としては，［　35　］にもとづいて真に民衆の幸福をはかる (a)王道の政治を主張した。さらに民意にそむく暴君は治者の地位から追放されるという説を認めた。

荀子は，孔子の礼の教えを継承しながらも，性悪説をとなえた。人間は生まれつき利をむさぼり人を憎む傾向がある。だから，自然のままにほうっておくと乱をなすので，規範としての礼によって人々の性質を［　36　］しなければならないと説いた。

問１　文章中の空欄［　29　］～［　36　］に入る最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［29］
① 良能　② 是非
③ 惻隠　④ 良知

［30］
① 良能　② 是非
③ 惻隠　④ 良知

［31］
① 礼　② 信
③ 忠　④ 恕

［32］
① 大丈夫　② 真人
③ 君子　④ 聖人

［33］
① 恕　② 敬
③ 忠　④ 義

［34］
① 恕　② 忠
③ 序　④ 敬

［35］
① 忠信　② 仁義
③ 礼智　④ 忠恕

［36］
① 統治　② 制覇
③ 処罰　④ 矯正

問２　問４　下線部(a)に関して孟子が唱えた王道政治についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［37］

① 神秘的な事柄への関心を捨て，古来の儀礼を排することで，天と人を分離し，天の意志に左右されない人間中心の政治
② 武力による支配ではなく，人民の幸福を真に考え，まず生活の安定をはかり，そのうえで道徳的教化を目指す政治
③ 国家の規範として法律を定め，各身分の役割を明確にすると同時に，為政者による臣下の統制を国家の原則とする政治
④ 民衆からの過重な徴税を批判し，君臣の身分の区別なく，すべての人が農業に従事する平等な社会を目指す政治

問３　次の『孟子』の現代語訳の引用文中の空欄［38］に入る語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

「おたずねしますが，浩然の気とはどういうものですか」
「ことばで定義することは困難だ。浩然の気というのは，何ものよりも大きく，どこまでも広がり，何ものよりも強く，ちっともたわみかがむことなく，まっすぐに育ててじゃまをしないと天地のあいだにいっぱいになる。また，この気というのは，［38］と道とから離れることはできない。もし分離すると植えて気は死んでしまう。浩然の気は，［38］を行ったのが積み重なって発生したものであり，［38］が浩然の気を突発的に取り込んだのではないのである。

① 義　② 智　③ 仁　④ 礼

第５問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問４**）に答えよ。(配点　12)

春秋時代から漢代のはじめにかけて，のちに四書および五経として重視されることになった儒教の多くの教典が成立した。その後の儒家の思想は，これらの経典を体系的にどのように理解するかによってさまざまに発展した。漢代以降の儒家の思想を，それ以前と区別して儒学というが，その代表的なものは［　39　］代の朱子の朱子学と明代の王陽明の陽明学である。

(a)朱子（朱熹）は，天地万物は，そこに内在する宇宙の規範原理である理と，その物質的要素である［　40　］とによって構成されていると説く。こうした考えにしたがって，朱子は，万物にやどる理を窮め，心身を修養してこの理につつしみしたがうべきことを説き，そのような努力によってみずからの知を高度におし進めることを重視した。

一方，王陽明は，理を天地万物に内在する客観的なものとしてとらえ，人間の本質もまた理であるとする朱子学の考え方にあきたらず，理を人間の心の内部に見出し，生まれながらに備わっているとして［　41　］を唱えた。そして，その生まれながらに備わっている善悪を判断する能力のままに生きることを主張した。さらに，彼は，【　A　】の立場をとって，実践を重んずる考え方を説いた。

問１　文章中の空欄［　39　］～［　41　］に入る最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［39］
① 宋　　② 清
③ 唐　　④ 元

［40］
① 陰陽　　② 気
③ 質料　　④ 体用

［41］
① 心斎坐忘　　② 心即理
③ 性即理　　④ 居敬窮理

問２　下線部(a)に関して，朱子の著作として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［42］

① 朱子語類　② 近思録　③ 伝習録　④ 四書集注

問３　文中の空欄【　A　】についての次の説明を読んで，【　A　】に入る適当な語を下の①～④のうちから一つ選べ。［43］

知ることと実行することとは本来二つには分けられない、とすること。王陽明（守仁）は、朱子学が真理の認識や道徳的是非の判断（知）を先にしてその実践（行）を後にする論に傾きがちであったことや、明代の俗学が実践を伴わない空論に流れたことを批判して、【　A　】を主張した。

① 知行合一　② 行先後知　③ 知先行後　④ 致良知

問４　朱子(朱熹)の学説についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[44]

①　人間を含む天地万物を気による運動体と見なした上で，死物の条理である天理よりも，身近な日常の人倫を重視するよう説いた。
②　心が弛(ゆる)むのを警戒し常に覚醒(かくせい)させようとする敬の実践と，事物に内在する理(り)を体験的に窮めてゆく実践とをともに重視するよう説いた。
③　知ることと行うこととを一つのことと見なし，あらゆる場で心の理である良知を十分に発揮させることを重視するよう説いた。
④　孝は万物を生成し秩序づける宇宙の根源であり，あらゆる人々に等しく内在する心情であるとし，その実践を何よりも重視するよう説いた。

問題は次のページに続きます。

第６問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問４**）に答えよ。(配点　12)

老子は，万物がそこから成長するもの，万物の存在を成り立たせているものを，仮に名づけて (a)道（タオ）とよんでいる。そして道自体は対象としてとらえられないから，名づけようがないという意味で，無でもあるという。万物は無から生じて無に帰る。この無から有，有から無への運動は，永遠にくり返され，すべてのものは変転する。したがって人々が福と思い禍と思うものも絶対的でなく，福はやがて禍に，禍もやがて福に転ずるものだと説いている。

それゆえ，老子は，道徳や文化などは人間が作為した相対的なものであると考え，儒家の教える道徳はすべて，世がみだれたためにやむをえず説かれたものであるとしている。そのことを老子は，「大道廃れて［　45　］有り」といっている。

人生や宇宙をこのように見る老子にとって，賢明な生き方とは，世俗への執着心をすて，(b)常に人の下手に出て人と争わず，また，何ごともあるがままに素直に，作為をろうせず自然にしたがって生きることであった。そして，［　46　］こそ理想社会であると説いた。

荘子は，ありのままの世界は，本来，万物が平等で斉しい世界であると考える。そして，功績や名声など自己への執着と分別の心から人間の苦しみが生まれるとし，こうしたことから自由となり，虚心になって天地自然と一体となる境地に遊び，与えられた寿命をまっとうする人を［　47　］とよんで，かしこい生き方の理想とした。

問１　文章中の空欄［　45　］～［　47　］に入る最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［45］
① 智慧　② 孝慈
③ 仁義　④ 忠臣

［46］
① 礼楽刑政　② 小国寡民
③ 兼愛交利　④ 治国平天下

［47］
① 君子　② 大丈夫
③ 真人　④ 聖人

問２　下線部(a)に関して，荘子が唱えた「道」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［48］(2015 年センター本試験)

① 「道」とは，人間の従うべき道徳の規範であり，忠恕に基づいた礼の実践によって体得されるものである。為政者は，この「道」に基づき，己を道徳的に修め，人を感化することによって，はじめて人を治めることができる。

② 「道」とは，万物の根源であるだけでなく，また人間の心のなかにも本性としてそなわるものである。しかし，私欲によってその発露が妨げられているので，うやうやしく慎むことによって，「道」を発揮しなければならない。

③ 「道」とは，差別がなく万物が等しい境地であり，自己の心身を忘れることで体得されるものである。そのためには，偏見に囚われずに，心をむなしくする修養を通じて，天地と一体になることが必要である。

④ 「道」とは，天地万物に内在する客観的なものではなく，人間の心のなかに生まれながらに存在するものである。したがって，外界の事物に「道」を追い求めるべきではなく，心のなかの「道」のままに生きるべきである。

問３　下線部(b)に関して，次の老子の文中の空欄［49］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

人の生まるるや［　49　］、その死するや堅強なり。万物草木の生まるるや柔脆、その死するや枯槁なり。故に堅強なる者は死の徒にして、［　49　］なる者は生の徒なり。ここを以って兵強ければ則ち勝たず、木強ければ則ち折る。強大なるは下に処り、［　49　］なるは上に処る。

①　無為　　②　柔弱　　③　斉同　　④自然

問４　次の荘子について説明した文中の空欄［50］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

運命といえば，いつでも問題になることは，この運命を決定するもの，運命の主宰者が存在するか否かということである。荘子はときに「真宰」という語を用い，しばしば「造化」「造化者」「造物者」という語を用いる。それは一見すると，運命の神を意味しているように思われる。だが，その主宰者には姿はなく，そのありかを求めても得られないものである。

この姿なき主宰者，造化者とは何であろうか。それはじつは［　50　］にほかならないのである。「［　50　］」とは，もともと「他然」に対する言葉である。他者によって動かされることなくそれ自身に内在するはたらきによって，そうなっているものが［　50　］である。それは人為という異質的なものの介入を許さず，それ自身の同質性を保持するものである。

①　俄然　　②　必然　　③　偶然　　④　自然

これで問題は終わりです。